
とある理不尽な転生物語

ネコネココネコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある理不尽な転生物語

【Zコード】

Z3442P

【作者名】

ネコネコネコ

【あらすじ】

転生したいなーと冗談で思っていたこの小説の主人公 川中 陽

かわなか
よ

が偶然神に読まれて転生させられる

転生先は『とある科学の超電磁砲』

さてどうなる事やら

正直に言いまして、自己満で文才の欠片も感じ無い駄作であると
それでもいいと頷つ方はどうぞ

始まり

（転生したいなー）
なんて冗談を思つてゐる川中陽
すると

その願いを叶えてやるつ

（！？）

突然聞こえた男の声
しかし考える時間がくる前に

ゴッ

「ツー？」

頭に何か上から落ちてきてその痛みで地面に倒れる
そしてそのまま意識を失う

最後の視界に映つていたのは倒れた植木バチだった

陽が意識を回復させるとそこは

「何処だ此所は？」

真っ白な空間が視界に入る

周りを見るが真っ白以外何も無い

「お皿覚めですか？」

「え？」

周りに向けていた視界を前に戻すと

「おはようござります」

真っ白な服に身を包んだ推定十一歳位の女の子が居た

「此所は何処だ？」

「此所は神の間ですよ」

「はあー?」

場所を聞いていきなり神の間ですよと言われ混乱する

「信じてませんね

では勝手に転生させていただきますので
行つてらっしゃー」

「え? ちゅーまつた

陽が言葉を言こむ前に真っ白な床に六が空き

穴の中に落ちて行く

「あっいけない
説明するの忘れてた」

落ちて行く時にそんな言葉が聞こえたような気がする陽であった

到着

「は？」

穴に落ちて氣を失っていた陽

「次は何処だよ・・・」

起き上がって周りを見ると

「・・・」

公園のど真ん中であった

「・・・なんでだよ」

公園のど真ん中で倒れてた人が居ると少なくとも普通じゃないので
視線を感じる
しかも空が明るい事から毎

（俺はこんな所で倒れてなかつたし体が中学生位になつてゐる・・・
タバコが吸えないな
着てるのも中学生の服だし）

状況を把握するとため息をついて

「どうしたらいいかな・・・」

（やういえば今原作の何時だ？でか）

「移動しないとマズイな・・・幸い、まだ通報されて無いみたいだ
し」

歩き回ってわかつた事はここは学園都市だとゆう事
そして歩いてる際にポケットに何か入ってる事に気がついて出してみると紙があり開いて書いてあつたのは

『説明プラス能力をつけるのを出来なかつたので説明します
まずその世界は君の世界のアニメとある科学の超電磁砲です
そして第一話の銀行事件三時間前です
能力の方は Fateの英靈工ミヤの投影と固有結界及び使用には演
算を使用します又魔力による使用も可能ですが固有結界は発動は難
しいでしょう

出来て真名解放が二回です
それ以上は代償がつきますので
では以上で終わりです

by 神

生活面での説明が無いが住所が書いてあるから問題無いだろう

(さて、銀行事件が始まる前にその場所についての間にかついて
た)

『都合主義だな

(じゃあ銀行に入つて強盗が入つてくるのを待ちますか)

陽は強盗を待つ為銀行に入つて行つた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3442p/>

とある理不尽な転生物語

2010年12月6日23時01分発行